

# 土佐高野球部通信

土佐高校野球部HPは <https://tosa-baseball.jp/>

2026年(令和8年)  
6月13日土曜日 創刊号  
発行  
甲子園で校歌・  
応援歌を歌う会



## 2026年度 状況報告

初夏を思わせるような青空のもと、県高校総体が5月23日から25日に行われました。この大会は、春入学した高校1年生をメンバーを加えて初めての公式試合で、各校の仕上げり具合も気になるころです。また、この大会は夏の甲子園大会県予選を戦うトーナメントのシード権を争う試合です。

4ブロックに分かれて試合を行い、土佐はD組決勝で高知農業に7対0(8回コールド勝ち)で勝利、無事にシード権を獲得しました。同じシード権を獲得した高校は、高知商業・中央・明徳義塾の3校です。土佐は、第3シードとなり、夏の県予選では、明徳義塾と同じブロックとなります。

高校野球では、春の選抜大会から一投手や野手の負担軽減や、部員の出場機会拡大を目的とした指名打者(DH)制が採用されており、5番、バッターに都志君が馬場投手のDHとして入りました。



### 今後の予定

夏の甲子園予選については、高知大会は7月11日(土)から7月25日(土)まで開催される予定です。対戦相手が決まる組み合わせ抽選会は、6月27日(土)に行われます。高知に帰省の折には、球場での応援をお願いします。

## 昨年度の戦績

ここで、昨年度後半の戦績について振り返っておきましょう。昨年の秋季高知県大会は、準決勝で高知中央に2-1で勝利、33年ぶりの決勝進出でした。決勝では2-1で惜しくも逆転で明徳義塾に負けましたが、10年ぶりに四国大会に進みました。

四国大会では、初戦は徳島の海部高校に5-4で勝利しましたが、香川県の藤井高校(現逢萊高校)に0-6と力が出せず敗れ、甲子園出場は果たせませんでした。

野球部員は18人が出場、スタンドから声を張り続けた2年生は3人でした。四国大会を経験できたことを今後の課題として、さらに成長してもらいたいです。



坊ちゃん球場には、「甲子園で校歌・応援歌を歌う会」からも数名が応援に駆けつけました。

選抜大会後の、春季大会は順調に進みました。準々決勝では、高知商業と対戦。逆転され3-4で負けました。この後高知商業は、明徳義塾、高知農業に勝ち優勝いたしました。

部員たちは、技術も体力もつけてきているようですね。

## 1年生25名が入部しました

土佐高校の入学式は、五百蔵誠一新校長のもと4月9日に行われました。入学式のあとに、野球部恒例の1年生同士での紅白戦を行なわれ、最後まで目が離せない試合となり、サヨナラで白組の勝利でした。

伝統の全力疾走にできる限り努める姿勢や元気に声を出す姿に、明るい未来を感じたと報告がありました。目指せ甲子園!

部員が増えたため、二部に分かれて練習していましたが、本会からは、不足しているという野球道具購入費を差し入れました。



## 卒業おめでとう

1月31日、土佐高校の卒業式が行われました。卒業した101回生の野球部員は8人でした。人数が少なく、途中で監督も変わる経験もしました。

怪我が多く苦労や苦戦をたくさんした学年でした。何事も一生懸命な姿は間違いなく後輩たちの模範になったことでしょう。

現野球部主将が、送辞の大役を務めた卒業式の後、野球部員は向陽グラウンドでセレモニーを行い、後輩たちとは別れを惜しんだということです。



## 金田監督からのお礼のメッセージ

### 同窓会関東支部の皆様へ

土佐高校野球部監督の金田と申します。同窓会関東支部の皆様におかれましては、日々多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

私が監督に就任してもう少しで2年になります。この間、様々な学校さんと向陽グラウンドで試合をしてきましたが、「来るたびに施設が進化している。すごい。高校野球でこんなに激変しているチームは珍しい」と驚かれ続けました。炎天下でトレーニング器具を出し、自分達で片付け、バッティングをするならボール拾いの時間に多くとられる、そのあと自分達でグラウンド整備をし、、、と準備や片付けに多くの練習時間を割いていた非効率な以前の練習からは一変、現在はエアコンの利いたトレーニングルームで常設のトレーニング器具でトレーニングをし、そのトレーニング時間を捻出するために、グラウンド整備はトラクターで行っています。1つしかなかったとりかご打撃練習所は6つに増えました。とりかごならボールを拾う時間も省略できます。ひとえに池田様が代表を務める同窓会関東支部『甲子園で校歌・応援歌を歌う会』をはじめ同窓会関東支部の皆様のおかげでございます。

そんな恵まれた環境を頂き、選手たちはのびのびと文武両道に励んでおります。野球部通信にあるとおり、現102回生世代は33年ぶり秋準優勝、10年ぶりの四国大会、15年ぶりの県体ブロック優勝、2018年以來の夏シード権を獲得しました。練習試合でも手ごたえを感じており、昨年選抜出場の米子松陰に7-0、愛知の名門東邦高校にも8-3で勝利するなど、甲子園に出る力があることを証明してくれています。これまで土佐の野球部は身体が弱いと言われがちでしたが、今年のチームは肉体的にも強豪校に劣りません。これは専属のトレーナーが毎週本校の練習に参加し、毎日のトレーニングメニューを組んでくれていることが大きいです。これも『甲子園で校歌・応援歌を歌う会』からの寄付で成り立っています。

また、勉強面でも現102回生は頑張っており、レギュラーのうち捕手・二塁手が東大志望、投手・中堅手が慶應志望、左翼手は医学部志望と本校の模範的な頑張りを見せてくれています。これには本校野球部OBでR進学塾を経営されている岡林さんが夜に勉強を教えにきてくれていることが大きいです。そのほかにもボールや食品、練習の手伝い、審判等地元OBの方々の寄付・支援も欠かせません。これも同窓会関東支部の皆様も支援してくれているからと、自らも一肌脱いで本校野球部のためにご支援くださる方も増えたと感じています。



また、本校野球部を目指す中学生もどんどん増えております。今年から寮生の数を制限し、お断りしなければならぬほどになっております。102回生が作ってくれた実績を見て「甲子園に出るんだ」という生徒が希望してくれるようになったことも大きいですが、何よりネックになっていた右文寮が『甲子園で校歌・応援歌を歌う会』の寄付によって一部改装されたことが重要だと思えます。

池田様には5年以内に甲子園と言われております。私にとってとても重要なお約束です。しかしながら私の仕事は「毎年」選手の目標をかなえること。それを通じて社会で通用する力を学んでもらうことです。まずはこの夏に甲子園に出るべく全力で取り組みたいと思います。本来ならば本日お伺いし、直接御礼を申し上げたいところでしたが、練習の方を優先させて頂いたことお詫び申し上げます。皆様とはまもなく甲子園でお会いできるよう、頑張ります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。